

登山学校 無事に閉校!
 第15期・埼玉労山登山学校は5月22日に、年間受講者20名(8名欠席)スポット参加者1名、担当運営委員1名(3名欠席)でスタート。第1回講座「計画から下山まで」～第8回講座「雪山歩き」まで無事に終え、2月5日に閉校式を迎える事が出来ました。





**登山学校
閉校式**

2月5日
カルタスホール
27名
受講生 16名
運営委員 11名

第15期方針と重点として、「基本的な知識や技術を身につけ安全登山を目指す」「年間を通して登山の知識・技術を謙虚に学びたい一般・

会員を対象にする」を目的に①運営委員の共通指示事項の徹底。(意思統一)
 ②受講者の経験やレベル交流。
 ③新しいコース・山域の検討。
 ④各講座内容のレベルUP
 以上を活動方針として活動して来ましたが、
【今期活動の総括と課題】
 ①指示事項の徹底について各講座の5日前に運営委員会を実施し講義内容の再確認、指示事項の確認等を行う事とすべて実施出来ました。来期もこの体制を維持して行きたいと思えます。
 ②受講者の経験交流について今期は労山所属会員と無所属の受講者の混成で、また経験や年齢もバラバラでしたがバランスを考えた班分けを講座ごとに変えて行い、順次役割(班長、副班長、記録、など)を経験することで受講者の自信にも繋がり受講者間の交流も生まれている。また、講座ごとに班付けの運営委員もかわるので、受講者や運営委員との交流も出来ました。
 ③コース山域の検討について

新しいコースも多少増えましたが、より魅力有る登山学校にして行く為に新しい山域を開拓する努力を各運営委員は必要と考えています。また各講座の実技登山のあり方・実施方法も再検討しより良い登山学校にしようと運営委員は考えています。
 ④内容のレベルUPについて前年の評価カードの意見を生かし、講座内容について話し合い各講座のレベルUPが計られました。来期も今期以上に内容を熟考し質の良い内容になるよう運営委員の努力が必要と考えます。
 担当理事 小松勝浩 記



◎ 15期登山学校 講座一覧

区分	机上	人数	実技	人数	運営委員会	担当運営委員
説明会・開校式	5/22	21名			5/10(月)	
①計画から下山まで	6/12	22名	6/13	24名	6/7(月)	若木・八木原 講師 伊藤
②登山と運動整理 ★	7/3	23名	7/4	22名	6/28(月)	水谷・武笠・坂元 講師 水谷
③山での救急法	8/7	25名	7/4	22名	6/28(月)	水谷・武笠・坂元 講師 水谷
④地図の読み方 ★	9/4	26名	8/8	25名	8/2(月)	軽部・坂元 講師 軽部
⑤岩登り(初級) ★	10/2	29名	9/5	24名	8/30(月)	尾手・若木・八木原・佐藤・井上 講師 尾手
⑥天気の見方	11/6	25名	11/7	22名	11/1(月)	伊藤・若木・小松 講師 徳重・小松
⑦総合学習登山	12/4, 12/5 実技のみ 20名					尾手・佐藤・小松
⑧雪山歩き ★	1/15	16名	1/16	16名	1/11(火)	高橋・駒崎 講師 高橋
閉校式	2/5	16名			1/31(月)	事務局(駒崎・小松)

日程・参加人数・委員会担当運営委員 机上講座は土曜日、実技講座は日曜日
 ★印 机上講座が午前 9:30～12:00, 午後 1:30～5:00 人数はスポット含む)

関東ブロック 救助隊合同深雪搬出訓練

期日 2月26日(土)～2月27日(日)
場所 谷川岳、土合山の家 参加：9名

2月26日(土曜日) 晴れ

大宮を9時30分に出発して東松山ICから関越道に入りが混んでいて時々止まってしまふ。他のグループも同様で渋滞は沼田ICまで続いた。

目的の「土合山の家」に着いたときは10時半になってしまいました。受付をすまして講習会場に行くともう始まっています。

講習内容は「低体温症に関する机上講習」、講師は藤林啓志氏「登攀クラブ岩ツバメ」です。

講習を受けた感想はパワーポイントの説明で良く分かった。特に脳の写真と低体温症にならないためのグッズとして心点の実物(ブランケット、ヒートソリューション)には興味を覚えました。

午後より講習グループと訓練グループに分かれての行動で講習グループは室内で行う。訓練グループは山の家周辺にて低体温症に関する臨床実験を行う。

埼玉労山は「梱包」を受け持っていたが梱包手順の確認をするため別室で講習の準備をしました。3回ほどして準備

備が終わった時には一時過ぎて受講者が来ていました。

講習は徳重救助隊長が我々の配置を指示したあとと受講者に簡単な説明をして始め結びは〇種類で受講者に見本を見せて、そのあと受講者が行いました。

実際の梱包も見本を見せて、そのあと受講者が行う手順ですすめました。受講者のグループは〇班あり講習が終わったときは1時半頃になりました。遅い昼飯を部屋で少し食べていると隣の部屋の訓練グループの人が帰ってきました。

入浴の後、食堂での夕食になりました。10時より講習の部屋に集まり、各県連救助隊の報告会があり、その後懇親会になりました。

報告会では群馬県の事故報告(黒岩で救助訓練中の事故)と低体温症に関する臨床実験報告、東京都では秩父での事故報告、ほかの県の報告もありました、他人ごとではないと実感しました。

懇親会は21時で一旦終了しましたが、多くの人が残って懇親を深めました。

2月27日(日曜日) 快晴無風の時に起床。どこから来たのか蛍光灯の下でカメモシが数匹動いている。9時半に朝食を済ませ、支度をして1時半玄関に集まり各班ごとに出発しました。

今日の埼玉労山の人員は梱包に徳重、武笠、尾手が入り、本部通信などに長谷川、三宅が受け持ち、受講者として若木、小島、谷脇、高橋が入りました。我々の班は群馬県の人たちと一緒にしました。場所は昨年講習した所より一段高い所で負傷者を梱包(ストレチャー用の梱包)して、引き上げ引き下ろしの所まで搬送して渡す作業でした。

次はビーコンの練習で講師は都連盟の川嶋氏でした。各自ビーコンを持つての訓練でした。入山時の送受信の確認、雪原に深さ1mの穴を掘り自分の受信の感度の確認、雪を盛った雪たまりをデブリと見なしてビーコンを埋め探



しに行き、プロローブを使い埋めてあるビーコン(人が埋まっているような感触)の探索をして見つけられました。二回目の探索は本番を想定してリーダー、見張り、ビーコン、プロローブ、スコップを持ちスタートして何分で発見できるかの訓練でした。我々の班は9分くらいでした。

最後は引き上げ引き下ろしの訓練です。講師は神奈川連盟の海輪氏でした。初めにスノーバーと土嚢用の袋に雪を詰めてどれくらいに耐えられるかを実験しました。

袋に詰めた雪は思ったより深くに詰めた雪は思ってたより深くに詰まると出てきてしまう。スノーバーの方は4人で引いても出ませんでした。しかし土嚢袋の軽さに魅力を感じました。救助隊として参加するので本格的な装備を使い分けの1の引き揚げ作業をしました。木を避けながらの引き揚げ、さらに上部の所まで引き上げました。「連続的に引き上げるとところに意義がある」と講師の海輪氏は言っていました。

講習を終了し、急いで山の家に向かい、11時半装備返却、暖かいトン汁を食べ、15時反省会になりました。訓練グループはマチガ沢で訓練を終えて昼頃には帰ってきていました。

【反省会】

*ビーコン担当の川嶋氏

1m以内に埋まっているビーコンを各班とも10分以内に掘りだしました。

*梱包担当の徳重氏

応急処置を終えた人を梱包して引き上げ、引き下ろしにつなげることをした。中に入っている人に気づかなくてほしい。圧迫感、苦しさがある。

*引き上げ担当の海輪氏

スノーバーと雪袋でアンカーを作った。梱包の中に人が居るとは思わなかった。声をかけてやれば良かったと思った。

*訓練グループ担当の森氏

人が埋まったという想定でしたが10分で掘り起し梱包をした。スムーズにいき、こ体くらい大丈夫だ。

*群馬茂木隊長は二日間お疲れ様でした。無事でよかったです。ありがとうございます。

*東京都川嶋氏は事故の一報より帰ってきた一報がいい。

*栃木県隊長森氏は来年の担当は栃木県なので日光国立公園でやりたい。

15時半に解散、二日間事故もなく有意義な講習でした。

浦和くまざさ山岳会

高橋 五男 記



県連 山スキーネット交流山行

期 日 2011年3月6日(日)
場 所 東北・あだたら高原スキー場

安達太良山

参加者 3団体 16名
(熊谷トレッキング同人、所沢HC、岩つばめ)

2011年3月6日(日)、安達太良山にて山スキーネット交流山行が行われました。今年所沢ハイキングクラブの長谷川さんの他、岩つばめから目崎さん・森田さんの参加があり、熊谷トレッキング同人の13名を加えて総勢16名とネット山行らしく大人数となりました。

あだたらスキー場のベースロッジに全員集合し、自己紹介・本日の行程確認の後出発しました。

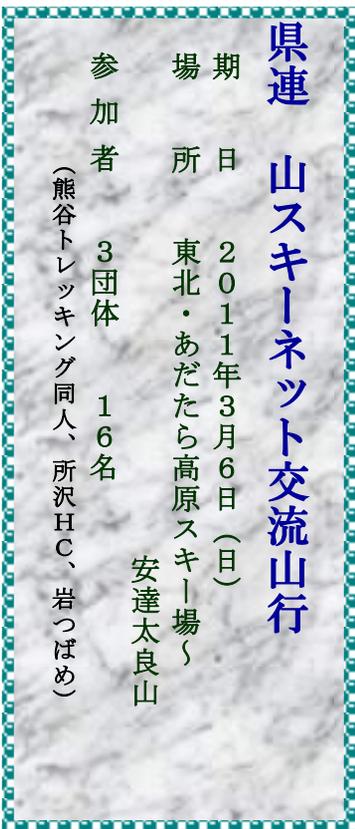
高速の道中では山頂も望まれ、絶好の天気かと思われましたが、安達太良特有の強風でゴンドラは運転中止。仕方が無いのでリフトを乗り継ぎ、リフトTOPから登り始めました。

五葉松平までは帰りのトレース付けを意識しながらルートを取り、1330mにて一休み。標高が上がるに連れて風雪共に強くなり、1470mで夏道の標識に合流した後は吹きさらしとなるので、目出帽・クト

ーを装着。視界も悪く、行けるところまで様子を見ながら進むこととしました。1580mまで登り、この先は完全にホワイトアウトの状況であったため、山頂は断念し、今回はここまでとしました。

強風に装備を飛ばされないう様に注意して準備を済まし、滑降開始。視界が無く雪面の様子が良く分からないうえに慎重に高度を下げていきましたが、筆者はめまいがするようになりました。1500m付近からは沢の側面斜面を滑って、やっと滑った感覚を楽しめました。

沢底で昼食休憩の後、もう一本滑るべく再度シルトを着けて出発。最初、北にトラバース気味に進み、対岸斜面が滑れないか覗いてみましたが、雪面が風にあたかれて硬く、斜面も無木立で雪崩の危険性が非常に高い状態であったので引き返しました。その後は滑ってきた沢を登り返し、一本



目とほぼ同じ1520mまで登りました。ここから登ってきたルートを戻るように滑りました。沢中の雪なので、それなりに滑りは楽しめました。

五葉松平で登りのトレースに合流し、平坦な所はトレースをボブスレー滑降で進んでゲレンデに戻りました。ベースロッジで解散式の後、直帰する岩つばめのお二人とはここで別れ、残りのメンバーは岳温泉で冷えた体を温めた後、帰路につきましました。

今回は予想外の吹雪とホワイトアウトで思うような行動が取れませんでした。悪条件の中でも無事終了する事が出来たのは良かったと思います。

担当理事 木村哲也 記
(熊谷トレッキング同人)



昨年の那須・スダレ山

山で会える花

ハイキング委員会

澤藤俊昭

カタクリ

雪解けとともに、山々は芽吹きを季節を迎え、いち早く残雪の下からは春の花々が顔を出す。

雪割草とともに、このカタクリもまた春を代表する花のひとつ。

上越等、残雪の残る北国では、山の斜面一面がピンク色に群生しているのも珍しくはないが、関東近郊では佐野・三轟山や高尾山や奥多摩・御前山～惣岳山等が素晴らしく、花の咲くこの時期には大勢のハイキング愛好者や花見客で賑わっている。

少し、遠くなるが新潟・六日町の坂戸山は、山麓の城跡から頂上までもカタクリが群生していて、雪の多かった昨年の5月の連休は満開の桜とコゴメ等の山菜取り、そして満開のカタクリやキクザキイチゲ等の花に出会えた！



岩ウチワ

この岩ウチワもまた、雪解けの春山でよく見かける花で、カタクリと同じくピンクの可愛い花が、山の斜面一斉に咲いている。咲き始めは白く、中には白い亜種もあり、イワウチワの名前は葉の形から花はうちわ風にあおられる風車のようなものである。残雪のある上越方面のどこの山でも見られるが、水上～谷川岳ロープウェイ駅に向かい、一の倉沢までの旧道(車道)の斜面や白毛門登山道でも手軽に見られる。また、小出の奥の権現堂山も一面のイワウチワの群落に感激した。



加盟団体の動き・紹介

南部ブロック わらび山の会

わらび山の会は、2011年4月で31回目の総会を迎えます。

会の創始者は元会長の森田千里先生で、当時勤務していた中学校で山岳部を作り、山登りをしている中、この当時の教え子(現理事長や登山学校事務局長も教え子の一人)や教員仲間、地域の山好きを集めて山の会を作ったと聞いています。

現在の会員数は23名で、会の例会は毎月第2水曜日に蕨駅西口近くの旭町公民館で行なわれ、例会参加者は平均すると50%ぐらいです。

会の山行形態はハイキングから冬山までオールラウンドで活動しています。会員募集は特に行なっていないが、入る人は拒まず、去る者は追わずといった姿勢で活動しています。

ここ数年は県連盟の登山学校の受講生の入会が多く、会員の居住地も蕨市在住者の割合が減り、公民館の無料使用も不可能になりました。

県連盟・ブロック活動にも積極的に関わって来ました。登山学校やクリーンハイク、谷川での深雪体験や交流ハイクなどブロック活動を重視し会員の交流を図ってきました。山行活動は、個人山行が主体になる傾向ですが、会員の日程を調整しながら会山行を取り組んでいます。

かつてRCCの同人の、故奥山章氏のインドヒマラヤの素晴らしさを伝える講演会が所沢で開催され、この講演をきっかけに元会長の森田さんはインドヒマラヤに通い詰める中で、とうとう現地に山小屋・アシラム(風来坊)を建設、全国の労山の仲間のト

レッキングや海外登山者への情報提供と援助を行なう。今日に至っています。

会長 伊藤正勝 記



裏妙義・丁頭岩にて



棒の折山白谷沢 沢登り



谷川深雪体験にて



丹沢・弘法山地図読み山行

理事会報告

第十二回理事会が二月二十三日(水)県連事務所で十四名の出席で行われました。

*委員会等活動報告・計画

【全国連盟活動】

・全国連盟第一回評議会 2/19~20日 出席：武笠

矢崎、木阪

・関東プロ会議9月(群馬)

・自然保護集会10月(埼玉)

・関ブロ女性委員会設立を

・関プロ事務局23年：千葉

*県連全体活動

【事務局】

・第四十四期県連総会 三月二十七日(日)AM9:00~

パルコ10階浦和コミセン「第14集会室」

【財政】

・各委員会等は3月6日まで

に仮払い清算。会計監査3/17

【機関紙】

・168号 原稿募集中

・【女性】女性委員会 2/28

・「山でのアクシデント対応講習会」3/12(土)場所：荒

幡いきものふれあいの里センター 現在：16名

【自然保護】足尾植樹(4/24)

クリーンハイク(5/29)

【HP】

・登山学校HP更新

・女性委員会の講習会掲載

【ハイキング】3/2日委員会

【海外】

・2/27全国海外集会

木村海外委員長出席

【救助隊】 2/7役員会

・2/14 机上学習会

・2/26~27 関東ブロック合同

救助隊深雪搬出訓練 土合

山の家

【登山学校】

・2/5日閉校式 受講者16名

+運営委員13名 北浦和カル

タスホール

【岩ネット】

・1/30 吾妻溪谷 2名

・2/19~20 湯河原幕山、

・3/13 日和田 RCT

【山スキーネット】

・3/6(日) 安達太良山スキー

【冬山ネット】

・4月マチガ沢雪上訓練予定

【ブロック活動】

西部：2/17 ブロック会議、

2/27 玉原高原冬山訓練

南部：2/17 ブロック会議

中部：3/12~13 阿能川雪

技予定

北部：2/28 日会議

*加盟団体活動情報

総会：山なみ4/3 20周年、

峠山の会4/3、新座山の会4/3、

三郷山の会4/10or17、わら

び山の会4/13

議題

①第四十四期総会

3/27 浦和パルコ10階

ロッセン第14会議室

・総会資料印刷 3/26

詳細は次回理事会

②その他

以上

理事 佐藤 記



玉原高原スキー場



動物の足跡を見ながらブナ林へ



皆楽しそうです



谷川岳

西部ブロック

玉原高原スノーシュー交流バスハイク

● 期日 2月27日(日) 日帰り バス利用
 ● 場所 沼田・玉原高原～玉原湿原
 ● 参加者 合計 34名(5団体)

晴天の中、西部ブロック主催による「玉原高原スノーシュー交流バスハイク」が行なわれ、三十六名が参加しました。

大型バスで所沢六時発。ふじみ野駅六時半発。バスは関越道を渋滞もなく、沼田から

予定時間通り玉原高原に着き、スノーシューをレンタルした後、いよいよ出発。スノーシュー体験が始まりました。

風もなく絶好の暖かな日和。上州武尊も谷川も実にきれいに良く見えました。AとD班に分かれそれぞれ雪の中を歩いて行きました。雪はしまっており、固く感じました。

スノーシュー独特のフワとした感触を楽しむことは出来ませんでした。体験には十分だと感じました。林の中を歩くのですが、もともと雪の中、道などない所を歩くのですから、もう少し自由に歩いているのですが、皆お行儀が良く、一列になって歩いていきます。横一列でも良いのに。スノーシューは雪の中を自分の足跡をつけて歩く楽しみもあるのだから、自然と一体

になって、自然に包まればいいのだからもっと自由に！と思いましたが、皆さんとにかく一列が好きのようでした。鹿、テン、ウサギ、タヌキ、キツネの足跡発見！ 加納自然保護委員の資料により、よくわかりました。

林の中腹で昼食をとりました。雪山は特別に昼食時間を撮る事がないのが常ですが、今日は交流と言うこともあり時間をゆっくり取ってくれました。塾歩歩はスコップでテールを作りしました。

帰りは玉原高原の中コースを戻りましたが、ブナ林の中で熊が食事をする時に作る、座布団のような熊だなを発見。皆で観察すると、幹に五本の足の爪痕がクッキリと残されていました。幹の上の部分まで皮が青くはがされており怖いなと思えました。サルノコシカケも沢山とれました。四時間程の行程でしたが、思いのほか楽しめました。

帰りのバスの中ではお互いに話が進み、久しぶりの交流に大賑わいでした。望郷の湯もいとお湯でした。仲間良し、天気良し、自然よしの三拍子

そろった山行でした。バスの中、「仲間と行くから、楽しいんだよ」と安田さん。新座の仲間も勿論良いのですが、たまに会う西部の仲間もいものだと思えました。仲間のとびきりの笑顔と共に、仲間の言葉が心に残りました。久保 典子(新座山の会) 記



熊棚



新座の仲間



塾歩歩の仲間



斜面のトラバース歩行

【編集後記】山々ではまだ雪も深く冬の装いでも、桃の節句「雛祭り」や「啓蟄」、そしてもうすぐ春分の日を迎えて、弥生は別名 花見月・桃月と言われるように、春を告げる花々が咲き乱れる絢爛たる季節の始まりでもあります。各地で梅祭りが開催され、また伊豆・河津桜、秩父・小鹿野町の福寿草や節分草、桃源郷で知られる甲府盆地や佐野・三轟山のカタクリ等といったなじみの花の名所ばかりか、陽だまりの近くの野原では早くも、オオイネフグリやホトケノザ、スマレ等の花が春を待ちわびたかのように可憐に咲いています。そして、寒さも彼岸までと言われるように、これからは日増しに暖かさも増し、草花ばかりか樹木の芽吹きとともに、桜の咲く本格的な春の季節を迎えます。陽春な春の一日、花を求めて近郊の低山ハイキングには最高の季節でもありますね！(この機関紙を編集している最中に大地震があり、慌てて表に飛び出しました。最大規模の地震発生で東北地方や関東首都圏等までもの広域で、津波や家屋の崩壊で被災された皆様や今尚孤立し救助を待つ方、また不便な避難所生活を過ごす方、また増え続ける行方不明の方々や犠牲になられた多くの方々に、心からお見舞いとお悔やみを申し上げます。) 澤藤

16期 登山学校 予定	
5月22日	開校式
6月11日、12日	計画から下山まで ★
7月2日、3日	登山と運動生理
8月6日、7日	山での救急法
9月3日、4日	地図の読み方
10月1日、2日	岩登り初級
11月5日、6日	天気の見方
12月3日、4日	総合学習登山
1月14日、15日	雪山入門
2月4日	閉校式

机上講座 9:30-16:30 ★は 13:30-16:30 になります。



県連携帯版ホームページのQRコードです。利用して下さい！